スターティングXP！

～XPを知ってまっか？～

今から始めるXP

日本 XPユーザグループ 関西

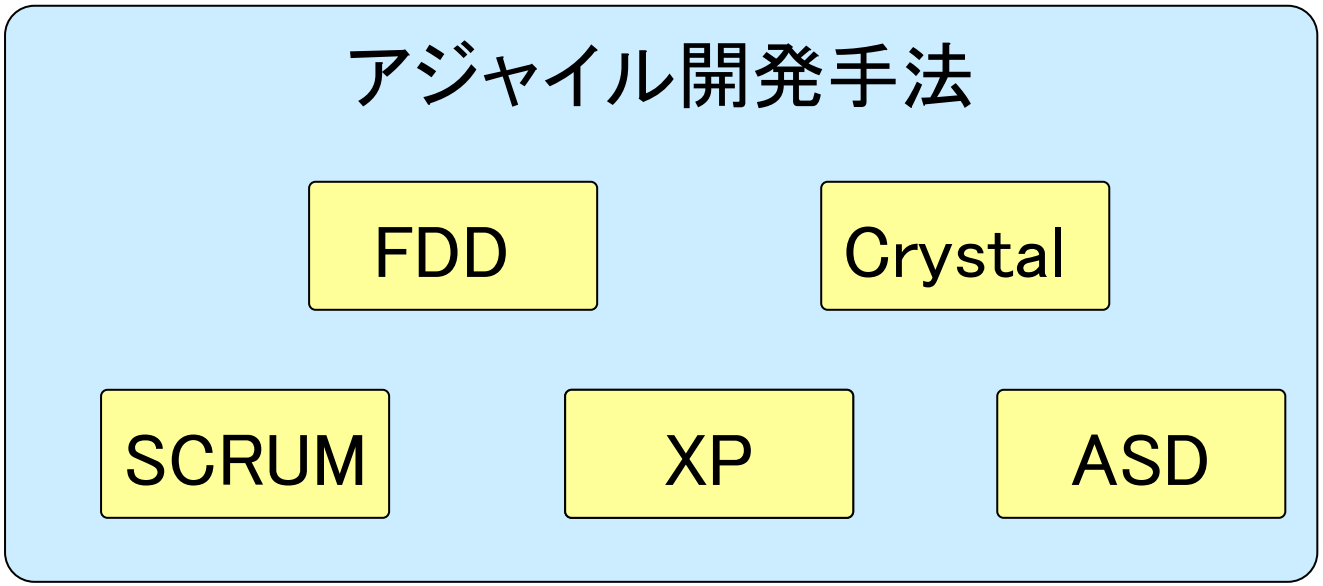
Agenda

- XPとは
- XPの大切なもの
- XPを実践するに当たって
- 最後に

XPとは

XPとは

- eXtreme Programming の略称
- 数あるアジャイル開発手法の中の1つ



XPの目的

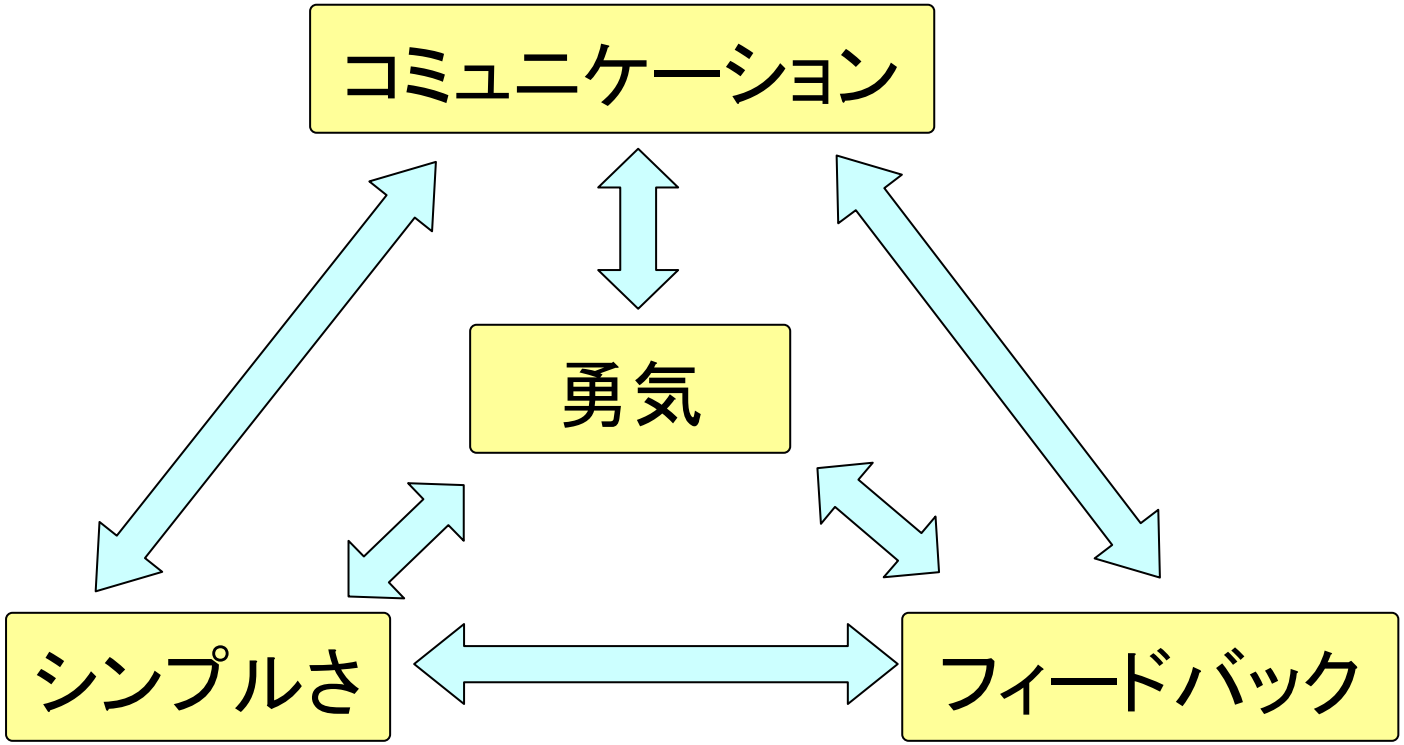
- チームの能力を最大限に発揮して開発を行う。
- 要求の変化や、市場の動向にすばやく対応する。

価値

XPの大切なもの・・・「価値」

4つの価値

- 「コミュニケーション」
  メンバーとコミュニケーション、お客さんとのコミュニケーション
- 「シンプルさ」
  シンプルな設計、シンプルなプロセス
- 「フィードバック」
  利用者からのフィードバック、メンバーからのフィードバック
- 「勇気」
  何かを始める勇気、変える勇気、実行する勇気


コミュニケーション
勇気
シンプルさ
フィードバック

プラクティス

XPを実践するに当たって・・・プラクティス

- XPでは、4つの価値を達成する為に、プラクティス（実践項目）が定められています。

- 開発者にとって比較的効果の出やすく始めやすいプラクティスを紹介します。

「ペアプログラミング」

2人の開発者が、1台のパソコンで開発を行います。
1人はコードを書き、もう1人は、それを支援します。
定期的に2人の役割を入れ替えます。

★ポイント

- 2人で行う方が、行動する勇気が持てる。
- 設計、運用時等でも、ペア作業の効果は大きい。
- 作業の目的は2人で共有できていることが前提。
- 目的とした効果を得る為のペアを組もう。
- かなり疲れます・・・

「テストファースト」

機能を実装する前に、仕様書よりテストを作成する。
そのテストをパスすることを目指して、実装を行う。
テストを自動化することで、変更に対するコスト増加を抑える。

★ポイント

- 過不足ないテストの作成がキモ。
- テストできる範囲とできない範囲を明確に。
- 全てのクラスについてテストを作るのではなく、重要なクラスに絞った方が良いと思う。
  計算誤差や丸め誤差を発生しやすいクラスに適用し、効果あり。

「週40時間労働」、「最適ペース」

1週間に40時間（残業しない）ペースで仕事をします。
時間中は、開発に集中し、開発効率の向上を目指します。

★ポイント

- 開発の効率化の為には、適度な休憩は必要。
- 他のメンバーが帰らなくても、勇気を出して帰ろう。
- 帰りづらければ、予定を入れてしまおう。
  彼女とデート、コミュニティ勉強会の参加 etc・・・
  一週間毎日、コミュニティに参加してます（byあきぴー）

「シンプルな設計」

今必要とされている機能だけを設計・実装する。

推測で設計を行い、ヤマが外れた場合の、手戻りに対するコスト増加を回避する。

★ポイント

- 何をする為のクラス（コード）か？ を考えよう。
- 今必要の無いコードは、勇気を持って削除。
- 無駄なコードが無ければ、コードも見やすくなる。
- 大安売りだからって、今必要の無い物を買うと、ゴミになってしまう（笑）

「朝会」

※XPのプラクティスではありません。

毎朝、全員集まって、情報共有を行う。
15分程度の短時間で行う。
スタンドアップミーティングとも呼ぶ。

★ポイント

- モチベーションを上げる事を心がけよう。
  「悩んでいた課題が解決しました！」という報告は大歓迎
- 長引く課題は「ぢゃ、あとでレビューしよう」
  長くなり過ぎないように！
- 司会者は、メンバー全員で当番制にしています。
  若手メンバーと熟年メンバーが対等に話し合える場として。

「オンサイト顧客」

お客様も開発チームに参加してもらいます。
お客様を100%拘束するわけではなく、必要な時に話ができ、素早いフィードバックが得られる体制を作ります。

★ポイント

- 決定権を持つお客様に参加してもらう。
- 日常的に会話する事で、コミュニケーションUp。
- 設計だけでなく、画面デザイン等も逐次確認を行うことで、画面の操作性が好印象。
- 部長の怒鳴り声が小さくなった（笑）。

その他のプラクティス

- 短期リリース
  短い期間でのリリースを繰り返すことで、お客様から素早くフィードバックを得ます。

- コードの共同所有
  コードは、チーム全員の所有物とすることで、誰でも修正することが可能となり、品質が均一となります。
  ペアプロと合わせて行うことで、共同所有が容易になります。

- コーディング規約
  チーム内でのコーディング方法を統一する事で、コードの可読性を上げます。
  ペアプロで、スムーズにドライブできるようになります。

最後に

- 大切なのは、価値を守ること。
- プラクティスは、そのまま使うのではなく、自分たちのプロジェクトに適用しやすいように工夫することが大切。
- まずは、できることから始めてみよう！
- やって良かった！ と思える開発をしよう！

ありがとうございました。